

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200382		
法人名	株式会社サンライズ		
事業所名	グループホーム伸&茉衣		
所在地	佐賀県唐津市佐志2119-2		
自己評価作成日	令和2年3月1日	評価結果市町村受理日	令和2年9月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「尊敬・思いやり・安らぎ」を常に念頭におきまた個人個人の「その人らしさ」を見出しサポートが出来るように努めている。  
 本年度は利用者の入れ代わりが多々あり新しく入られた利用者の方に不安なく過ごして頂けるようその都度柔軟な対応が出来るように努めている。  
 利用者の体調変化に早く気づき重度化しないよう職員間での伝達、医療機関・訪問看護との連携の強化に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和2年7月31日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山の中腹の、緑に囲まれた自然豊かな環境に佇むホームである。働きやすい環境が整備されており、職員の定着率が高く、安定した運営がなされている。職員は、入居者の趣味や出来る事、得意不得意、何がどこまで出来るのか等、細かい部分まで把握し、出来る事を取り上げてしまわないよう配慮しながら日々のケアを実施している。運営推進会議には、地域性を考慮し交番の駐在員をメンバーに加える等、ホームの立地に沿った運営に努めている。また、災害時に備え、各居室のドアには入居者それぞれの歩行状態を示したイラストを掲示し、スムーズに避難できるような工夫が行われている。手作りの神社があり、外出が難しい場合でも入居者が初詣を楽しむことができる等、季節毎に趣向を凝らした飾りつけがなされており、温かく楽しい雰囲気のあるホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	伸	茉衣		伸	茉衣
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊敬・思いやり・安らぎ」のあるグループホームを目指して利用者主体の生活環境作りをスタッフ間で意識付けしている。	理念は共有空間の目に留まる場所に掲示されており、職員間での共有や実践がなされている。朝礼や勉強会、会議時では理念の再確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会に参加しました。施設の夏祭りに運営推進会議を通して案内状を送った。民生委員の方とその家族、介護相談員の参加はあったが一般の参加が出来るまでは見出せていない。	ホームで開催する行事を地域住民にも開放している他、地域行事へ参加をする等、地域に出向き、一員となるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族には認知症についてわかる範囲で話をしている。地域の方には催し事に参加する事で徐々にではあるが活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加して頂いている外部の方の意見や助言を参考にし、ホームないの問題点を見出し、改善していけるよう心掛けている。	新型コロナウイルスの影響により今は開催を中止しているが、例年は年6回開催し、記録も整備されている。会議は話しやすい雰囲気で行われており、事故報告を含めた施設の情報共有の他、地域の情報を得る場としても活用している。	会議開催が難しい場合は、書面交付等の実施について検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に出向く事も増え担当の方にも質問等があれば電話連絡、もしくは出向くようにしている。	市とは良好な関係性が築かれており、報告や相談等、適切に行われている。管理者以外の職員も市役所へ出向くことで、より一層顔の見える関係性の構築がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では身体拘束は行わない。身体拘束排除の理念を掲げている。身体拘束の適正化を図るための委員会を運営推進会議にて開催している。職員にも周知徹底を図っている。	身体拘束は行われていない。勉強会や研修への参加の他、必要時には医療機関等の他機関に相談し、本人状態に合わせた環境を整え、身体拘束に頼らないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の講習会、勉強会にて知識を深め、虐待が起こらない・起こさない環境を作るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会等に参加して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にわかりやすく説明を行うよう心掛けている。入居後も家族の方の疑問や質問にしっかり対応出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で家族からの意見を話し合う事でより良い施設を作れるよう努めている。意見箱を設置している。	家族との良好な関係が築かれており、話しやすい雰囲気づくりが行われている。家族の意見や希望は、ホームが出来る範囲で運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	質問、意見等があればいつでも聞けるようにし、意見等があれば運営に反映させるように努めている。	管理者は職員の話を聞くよう心がけており、職員間の風通しもよい。出された意見や質問は職員皆で検討し、運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は個々の事情により出来る範囲で勤務時間等の調整が出来ている。また個々の努力、能力、実績を把握してもらえる機会も増え各自の向上心につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で管理者ならびに候補者を対象にした勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの運営推進会議に出席し情報交換や交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をじっくり傾聴する事や言葉にならない本人の要望や困っている事をしっかり見出し、表情や行動にも注目しながら対応出来るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談時、入居後においても家族の要望・質問等には丁寧に答え、安心してもらえるように努めている。職員側から積極的に会話を行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族及び利用者本人の意見をまず尊重しその中からニーズに合った支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の時間を共有しながら時には家族のように時には友人のように関係性を築き上げるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りなど家族を交えた行事の参加の呼びかけ、利用者と家族と職員が交流する場を設けより信頼関係を深めて行けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会は少なくなっているが継続して面会に来ていただけるよう声掛けを行っている。	馴染みの場所への外出や法事、葬儀への参加も支援している。個人情報に配慮し、家族の了承を得る等した上で、本人の友人や知人との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、職員が間に入って良好な関係作りの手助けをしたり利用者間でのトラブルが起きないように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設退居後であっても法人内の施設や病院で見かけた時は声をかけたり、家族の方と話や相談をうける事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から利用者の方の気持ちを汲み取り希望や意向の把握に努めている。	くつろぎながら話せるよう工夫し、日常会話から本人の思いや意向をくみ取るよう努めている。話が出来ない場合は、家族や関係者から情報を得ることで、本人の思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中でこれまでの生活歴を聞いたり家族の方からの情報をもとに現在の生活の向上に繋がるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活からの心身状態の確認やレクリエーション等の余暇活動からも状態を確認し有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼、終礼等の申し送りや業務中においても利用者の些細な事でも気づきがあれば職員間で周知、検討する。家族の方の意向も尊重しながら介護計画の充実に努めている。	介護計画やモニタリングも適切に行われている。本人や家族の意向を尊重し、現状に即した介護計画が作成されているが、実施記録の整理については、十分とは言えない状況にある。	実践が記録に反映出来るような取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各々に個別記録を作成している。記録が介護計画に反映出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に様々な施設があり連携・相談・アドバイスをもらいながら利用者のニーズに応じられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の住んでいた地域との接点は取れなくなっている。生活の拠点が施設中心となっており改善していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、往診は母体の病院となっているが本人、家族の希望、もしくはかかりつけ医があれば継続して受診している。	本人や家族の意向に沿った医療機関を受診する事が出来る。また、必要な医療を適切に受けられるよう、受診同行等の支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携をとっている。利用者の急変時に電話連絡で指示を仰いだり、施設へ来て対応してもらえる為利用者はもちろん職員も安心して支援が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は病院との連携をとり早期退院が出来るよう努めている。また入院中は出来るだけ病院へ出向き利用者の見舞い、病院との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は行っていない。法人内の病院にてバックアップ体制をとっている。契約時にその旨を説明している。	入居時に重度化した場合の説明を行う他、重度化した場合は、ホームで出来る事と出来ない事を家族に説明し、適切な時期に医療機関の支援を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の応急救護等の勉強会に参加して緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を行っている。時間帯等を変え少人数での対応を重視して行っている。地域の消防団等の協力要請を行っているが現状では得られていない。	夜間想定を重視し、毎月1回火災避難訓練を行っている。消防署の立会いを年に2回、通報訓練も年に1回実施しているが、夜勤専従者が参加しておらず、また、地域の消防団等の協力を要請しているが、まだ関わりが来ていない。	夜勤専従者の訓練への参加と、地域の消防団等への参加要請の継続を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への尊敬の念を持つように心掛け、言葉使いにも気をつけている。トイレや入浴時のプライバシーの保護や個人情報の取り扱いにも慎重に気を配っている。	本人の状態や状況に合わせた言葉遣いを心がけ、ドアの開閉も羞恥心やプライバシーに配慮して行っている。トイレ誘導もさりげなく行い、本人の尊厳を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを可能な限り実現出来るように努めている。その都度利用者にあった言葉かけ対応で本人の思い、希望を抽出出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が中心である事を常に念頭に起き職員の都合ではなく利用者の意向に沿った支援を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の服を利用者の好みに合わせられるように一緒に準備している。訪問にて散髪、男性は毎朝髭剃りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが状況によって変更する事もある。数名ではあるが体調に合わせて後片付け等を手伝ってもらっている。行事のお菓子作りにも参加してもらっている。	管理栄養士が献立作りを行い、食材は業者が配達しているが、入居者の好みや状態に合わせてメニューを工夫して提供し、食べる楽しみに繋げている。おやつ作りは入居者と一緒に行い、食事を楽しむための支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取出来る食事量を把握し完食を目指している。毎日水分摂取量をチェックし体調に合わせてお茶ゼリー、トロミを付けたりと工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の有する能力に応じて声掛け、半介助、全介助と分けて口腔の清潔を保持出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個人個人の排泄パターンを把握し、誘導する時間や言葉かけ方法を変えている。	排泄チェック表で入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、本人に意思確認を行った上でトイレ誘導するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気を配り軽度の運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ユニットごとで入浴日は決まっているが利用者のその日の体調に合わせて曜日関係なく対応出来るようにしている。	週3日の入浴を基本とし、本人の状態や希望に合わせた入浴支援を行っている。気持ちよく入浴できるよう言葉かけを工夫し、入浴時は本人がゆっくり過ごせるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて出来るだけ日中は起きてもらいレクリエーション等への参加で夜間安心して良眠出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や効果についてファイリングして職員があ目を通せるようにしている。誤薬等を防ぐため服薬チェック表を取り入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事やドライブ、また個々の誕生日会を行っている。数名の方が中心となり洗濯物たたみ、名前ごとに振り分けと役割分担が出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方は少ないが希望された場合は対応出来るようにしている。家族の方から送迎のみを頼まれる場合もあり対応している。	希望がある際は、個別の外出支援に対応している。法事や家族行事への外出支援も行っており、花見やドライブ等も計画的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者がお金を持つ場合は小銭程度であり本人希望の場合は家族の了承を得て使用出来るように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で家族へ電話される方もいるが家族から施設へ電話があった場合は利用者へ取次話をしてもらえるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に合わせて室温の調整や湿度にも気を付けている。またテレビの音量にも配慮し違和感のないように努めている。玄関、リビング等を季節感を味わって頂けるよう工夫をしている。	適宜換気を行い、温度計と湿度計を用いて入居者に合わせた空調管理を行っている。玄関やリビング等の飾りつけは毎月変更し、入居者が楽しみをもって過ごせるよう工夫している。音や光にも配慮がなされており、過ごしやすい共有空間づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に椅子を置いたりテレビ前にはソファ等を置き独りでゆっくり過ごしたり気の合った利用者同士でお喋りをしたりと寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や小物等は以前使用されていた馴染みのある物をおいてもらっている。時には利用者と一緒に配置変え等を行い気分転換が出来るように努めている。	使い慣れた物を持ち込んでもらい、安全に配慮しながら、入居者の状態に合わせた居室づくりを行っている。持ち込み禁止はしておらず、各居室の窓からは季節の移ろいを楽しむことができるよう家具等が配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、浴室等に手すりを付け利用者の安全に注意を払っている。個人の有する能力を活かし出来る事を奪わない介護を行うように努めている。		